

北関東地域ブロック会

なぜごみを減らさなければいけないのか！

ごみ清掃員の視点から読み解く人間模様

マシンガンズの滝沢秀一氏を迎えて、大宮で講演会を開催



北関東地域ブロック会（加藤紀雄会長）では会員を対象に、毎年、講師を招いて勉強会を開催している。

今年度は去る3月28日に、お笑い芸人「マシンガンズ」として活躍する一方、ごみ清掃員としての体験をつづった書籍を多数上梓するなど、ごみ削減活動を中心に発信、執筆、講演など多方面で活躍中の滝沢秀一氏を講師に迎えて講演会を開催した。当日は40名近くの会員さんが参加し、清掃員としての滝沢氏のリアルな日常の話に、前のめりになって耳を傾けた。

滝沢氏は知識ゼロから飛び込んだごみ収集の世界から、「日本一のごみ清掃員になろう」と決意し、とりわけごみの分別に特化して活動したことから、2020年消費者庁「食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長賞」を受賞、同年には環境省の「サステナビリティ広報大使」に就任するまでに。今ではSNSのフォロワーが2025年3月で28万6000人になるなど、名実ともに日本一のごみ清掃員である。

3Rの提唱だけではごみ問題は解決しない！

講演では「ごみはうそをつかない」「ごみには物語がある」「ごみは生活の縮図」「ごみはその人自身を表す」等々のごみの分別を通して見つめる滝沢氏の鋭い観察眼が、独特のごみ収集哲学となって披露され、視聴する皆さんは滝沢氏のリズミカルな語り口調に引き込まれ、真剣なまなざしで話に聞き入った。

また「ごみを適当に出す会社は6年以内につぶれる」「地位の高い人ほどごみの出し方がきれい」「汚いごみの中から出てくるテストの点数は低い」といった、ちょっぴり頭の痛い見解も飛び出し、会場の皆さんはくすっと笑ったり、首を縦に頷くなど、参加者全員が滝沢氏の「出されたごみを通してみる人間模様」に感服した様子。

最後に、当協会にも関連する3R（リデュース・リユース・リサイクル）について。「これを掲げるだけでは、今のごみ問題は根本的に解決しない。なぜなら、残念ながら日本のごみの最終処分場の寿命はあと23、4年しかないから」と警鐘を鳴らす。そのためにもごみを減らすことが緊急の課題であり、それにはごみの分別が第一歩になる。そこで“不要なもの捨てるがいい”という考えを改め、3Rにもう一つのR、RESPECT（リスペクト）の気持ちを加えて、今後は4Rを提唱すべきだとも。「ごみは人の心”人がごみと思った瞬間からごみになる」と話を結んだ。



感想を述べる加藤会長



質問する桑原理事



滝沢さんと一緒に記念撮影する北関東地域ブロック会役員の皆様